

言語活動の充実をめざして

知立市教育委員会
知立市教育課程研究推進委員会

1 新学習指導要領の改訂のポイント

[1] 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂

公共の精神、生命や自然を尊重する態度、伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことなどが、教育の目標として新たに規定された。

[2] 「生きる力」という理念の共有

「生きる力」をはぐくむことの必要性やその内容を教育関係者等の間で共有することがまず行われなければならない。保護者等の理解を得るために積極的な情報発信が必要である。

[3] 基礎的・基本的な知識・技能の習得

「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能は、発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基盤を構築していくことが大切である。

[4] 思考力・判断力・表現力等の育成

思考力・判断力・表現力をはぐくむためには、観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能を活用する学習活動を発達の段階に応じて充実させる必要がある。これらの能力の基盤となるのは言語の能力であり、その育成のために、小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱、漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で、各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要がある。

[5] 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用する学習活動を充実することができるよう、国語・理数等の必修教科の授業時数を確保することが必要である。

[6] 学習意欲の向上や学習習慣の確立

学習習慣の確立には、小学校低・中学年の時期が重要である。つまずきやすい内容をはじめとした基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、分かる喜びを実感させることが重要である。体験的な学習やキャリア教育などを通じ、学ぶ意義を認識することが必要である。

[7] 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

国語をはじめとする言語の能力の重視や体験活動の充実により、他者、社会、自然・環境とかかわる中で、これらとともに生きる自分への自信をもたせる必要がある。基本的な生活習慣を確立させるとともに、社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識を身に付けさせる観点から、道徳教育の改善・充実が必要である。運動を通じて体力を養うとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣を形成することが必要である。

2 主な改善事項

言語活動の充実

理数教育の充実

伝統や文化に関する教育の充実

道徳教育の充実

体験活動の充実

外国語活動の充実

3 言語活動の充実（中央審議会教育課程部会より）

(1) 言語活動の捉え方

各教科等における言語活動の充実は、今回の学習指導要領の改訂において各教科等を貫く重要な改善の視点である。

○ 国語科において

言語の果たす役割に応じ、的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成することや、わが国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。

○ 各教科において

知的活動の基盤という言語の役割の観点から

例えば

- ・ 観察・実験や社会見学のレポートにおいて、視点を明確にして、観察したり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する。（理科、社会等）
- ・ 比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する。（算数、数学、理科等）
- ・ 仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価し、まとめて表現する。（理科等）

教科等の知識・技能を活用する学習活動を充実することが重要

コミュニケーションや感性・情緒の基盤という言語の役割に関して

例えば

- ・ 体験から感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを使って表現する。（音楽、図画工作、美術、体育等）
- ・ 体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述する。（生活、特別活動等）
- ・ 合唱や合奏、球技やダンスなどの集団的活動や身体表現などを通じて他者と伝え合ったり、共感したりする。（音楽、体育等）
- ・ 体験したことや調べたことをまとめ、発表し合う。（家庭、技術・家庭、特別活動、総合的な学習の時間等）
- ・ 討論・討議などにより意見の異なる人を説得したり、協同的に議論して集団としての意見をまとめたりする。（道徳、特別活動等）

(2) 学習活動を支える条件

言語能力を高める工夫

語彙を豊かにし、各教科等の知識・技能を活用する学習活動を各教科等で行うに当たっては、教科書において、このような学習に子どもたちが積極的に取り組み、言語に関する能力を高めていくための工夫が凝らされることが不可欠である。また、特に国語科においては、言語の果たしている役割に応じた適切な教材が取り上げられることが重要である。

読書活動の推進

- ・ 言語に関する能力をはぐくむに当たっては、読書活動が不可欠
- ・ 各教科等において、発達の段階を踏まえた指導のねらいを明確にし、読書活動を推進
- ・ 学校、家庭、地域を通じた読書活動の一層の充実が必要

言語環境の整備

- ・ 学校図書館の活用や学校における言語環境の整備が重要
- ・ 言語に関する能力の育成に当たっては、辞書、新聞の活用や図書館の利用などについて指導し、子どもたちがこれらを通して更に情報を得、思考を深めることが重要
- ・ 様々なメディアの働きを理解し、適切に利用する能力を高めることも必要

4 言語活動の充実をめざす授業

(1) 国 語

① 言語活動の充実

国語科は、各教科等で行う言語活動の中核を担う教科であることを踏まえ、特に次のような点に重点をおいて計画・実践する必要がある。

重点A 言語力の伸長そのものを培う教科である点

重点B 言語力の特徴である伝達性と共に、認識性・論理性を培う教科である点

重点C 時代の要請として、人間関係構築の基盤として言語力向上が期待されている点

② めざす授業

A 国語科として身に付けさせたい力を、習得・活用共に本時・本単元に明示する授業

例1：小2『ビーバーの大工事』(説明文) 「読むこと」 習得

… 巣作りの仕組みの位置関係について読みとったことを、図に指し示す活動
(記述力の未熟な低学年児童にも、読みとったことを表現させるのに図示は有効であり、正確に読みとれているかを評価する観点から見ても、適切な言語活動であるといえる。)

例2：中3『古典を味わう』 「関心・意欲・態度」 活用

… 万葉・古今・新古今和歌集や紀行文『おくのほそ道』を読み、その和歌や俳句の鑑賞文を書いたり、話し合ったりする中で、古人の思いを読み味わい、表現の巧みさを説明する活動

(古典そのものへの関心を高めるために、鑑賞文を書くという活動を用いる。作品の解釈自体は習得にあたるが、鑑賞文を書くことで、習得した内容を活用する活動である。)

B 言語活動自体に、相手意識・目的意識を明確にした授業

例1：小1『きもちをつたえるまほうのかみって、なあに?』 「書くこと」 伝達性

… 出身保育園・幼稚園の恩師からの手紙に、返信を書くという活動

(手紙を書くという行為は、「誰に対して、何のために」という相手意識・目的意識を伴う。手紙の書き方を一方的に教えこむのではなく、教科書教材『てがみ』の読みを基本としつつ、地域の人材をうまく活用して強力な目的と意欲を引き出す例である。)

例2：小6『宮沢賢治の生き方に学ぼう』(伝記) 「話すこと・聞くこと」 認識性

… 学級全体で伝記「宮沢賢治」から賢治の生き方を学んだ後で、各自が興味をもった宮沢作品を読み、そのお薦め本を紹介し合う活動

(賢治の生き方に触れた子どもたちは、少なからず賢治の作品に興味を抱いている。そこで、もっと知りたいと思っている仲間同士で、各自のお薦め本を紹介し合う。この活動を通して、児童は自分が賢治から学んだことを主体的に認識することができる。)

C 他教科や総合的な学習の時間等、自校の教育活動で求められる言語力にふさわしいものとなるよう、「カリキュラム・マネジメント」の発想から言語活動を位置づける授業

例1：小3『お話をたつきゅうびん』 「読むこと」 総合的な学習の時間と連動

… 地域に住む一人暮らしのご老人に、音読を届ける活動

(教科における音読指導は、作品から理解したことを情緒的に表現する「読むこと」の習得及び活用の指導にあたり、総合におけるプログラム作りや発表会の運営は、教科の「書くこと」「話すこと」の指導に下支えされたものとなる。)

(2) 社会

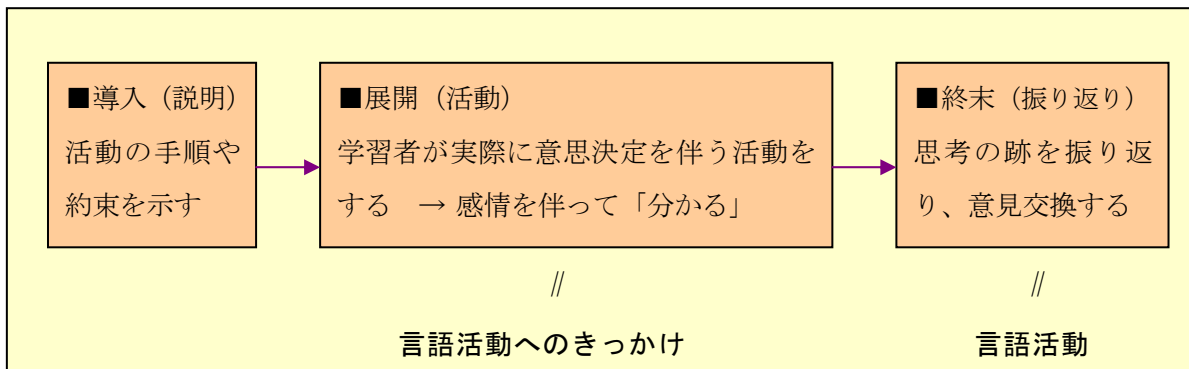
① 言語活動の充実

- ・ 新学習指導要領では、今までの「考える」「理解する」という目標から、考えを「表現する」という目標が重視されるようになってきている。言語によるコミュニケーション活動を前提として、まず「考えが表現できること」「言えること」が大切である。
- ・ 調べる学習で入手した知識（情報）と、既存知識や経験を結び付け、自分の見方や考え方を駆使して、自分の意見や考えを表出できる活動を取り入れる。
- ・ 社会的事象について考察したことを報告書にまとめ、発表したり討論したりする活動を取り入れる。

② めざす授業

- ・ 知識の習得は、考えるためのベースとして必要であるが、目標そのものではない。知識習得をゴールとする社会科授業ではなく、知識を基に考え、表現することをゴールとする社会科授業をめざす必要がある。
- ・ 子どもたちが社会事象を自分の問題としてとらえ、意見交換などのコミュニケーション活動などを通して意思決定をする過程を大切にしたい。「ワークショップ型授業」は、その一例である。

言語活動と意思決定を重視した「ワークショップ型授業」の基本モデル



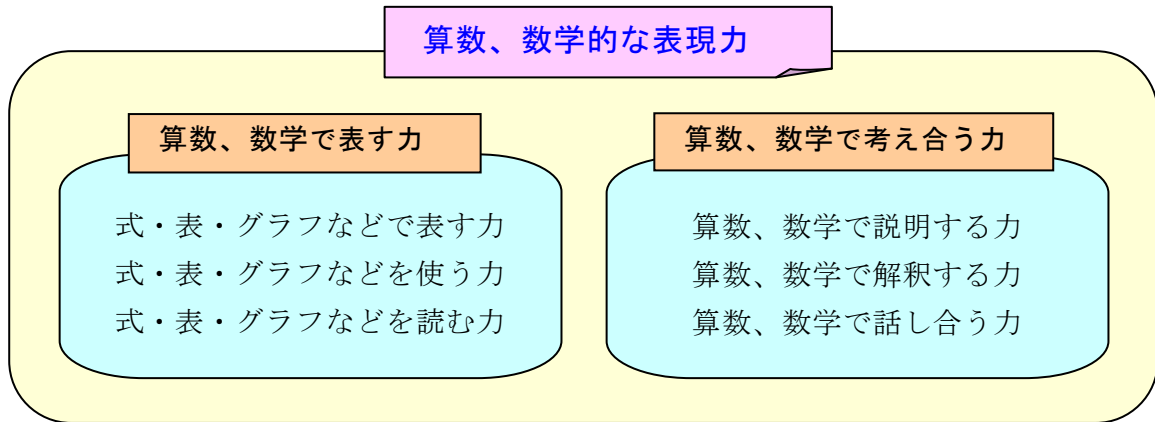
実践例 中2：坂本龍馬の船中八策ランキング

- ① 「船中八策」の8項目を提示する。（政権を天皇に返す 議会政治 憲法制定など）
- ② 重要度、必要度により順位づけ（ランキング）をするよう説明する。
- ③ 当時の日本の情勢など、既得知識や資料をもとに意思決定してランキングをする。
- ④ グループ内で結果を見せ合い、自分のランキングを根拠を示して意見交換をする。

(3) 算数、数学

① 言語活動の充実

算数、数学における「言語活動の充実」には、算数、数学的な表現力を身につけることが大切である。



○ 算数、数学的な表現力をとらえる3つの柱

「かく力」・・・表・式・グラフ・記号・用語などを場面に応じて適切にかくこと

「読む力」・・・数学的に表現されたことを的確に読み取ること

「伝える力」・・・算数、数学の用語や特有の言語を使って、分かりやすく説明すること

② めざす授業

算数、数学的活動の充実を図る

児童生徒が目的意識をもって、主体的に取り組む算数、数学にかかわる様々な活動

新たな性質や考え方を見いだしたり、具体的な課題を解決したりするために、具体物を操作する活動や、既習の知識を使って考えたり、説明したり、表現したりする活動を授業にどんどん取り入れる。

課題解決学習を位置づける

一人一人の疑問や思いを自ら解決に向けて考え、意見を述べ合うことでよりよく解決していく学習

算数、数学的活動を実現する学習として、自ら見いだした課題を解決する課題解決学習を指導計画に位置づける。

スパイラル（反復）な指導を意識する

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着をはかる指導

既習学習を振り返り、その習得を確認した上で新しい学習に進むことで、確かな力をつける。

●授業に話し合いや議論を

自分の考えを説明したり、友達の表現を読み取ったりする場をつくる。

●発表会やレポート作成を

学習の成果や自らの課題追究をまとめたり、発表したりする場をつくる。

●ノート指導に工夫を

自分や友達の考えを書くことで、考え方の違いやよさを振り返ることができるようにする。

(4) 理 科

① 言語活動の充実

理科における「言語活動の充実」とは、科学的な思考力や表現力等をはぐくむために、観察・実験の結果を整理（分析）し、考察（解釈）する学習活動や、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの活動を発達の段階に応じて充実させることである。このことは、理科授業でもっとも大切にすべき主体的な問題解決の活動において、新学習指導要領の目標に加わった『実感を伴った理解』を促す意味でも重要なことである。

② めざす授業

理科授業における言語活動の充実をめざして配慮すること

- ・ 自分の言葉で自分の考えを整理して表現できるようにする。
(話す・書く)
- ・ 適切な場面で適切な科学言語を使いながら説明できるようにする。
※ 「暑い、寒い」ではなく「温度が～」、「1つのわ」ではなく「回路」等 (話す・書く)
- ・ 相手の伝えたいことを確実に聞き(読み)取ることができるようにする。
(聞く・読む)

そのために、例えば次のような授業スタイルがある。

- ① 課題を提示する。(読む・聞く)
- ② 課題についての**自分の考えを書く**。(書く)
※ 自分の予想を書くことで自分の考えをもつ。
※ 予想を立てた理由を書くことで自分の考えを明確にする。
- ③ **予想を出し合い討論する**。(話す・聞く)
- ④ 討論の後に、もう一度**自分の考えを書く**。(書く)
※ 友達の考えを聞くことで自分の考えを再吟味する。



- ⑤ 問題解決のための**実験の計画を立てる**。(話す・書く・聞く・読む)
※ 問題解決のための見通し(何のためにどんな実験するのか)をもつ。
(例)「～が～になることを～を使って調べれば、～になるはずだ。」
- ⑥ 実験をする。
- ⑦ **実験の結果を整理する**。(書く・読む)
※ 目的に応じてグラフや表に表す。



- ⑧ **実験の結果を考察・吟味する**。(書く)
※ 自分の予想と問題解決のための見通しに照らし合わせる。
(例)「～が～になることを～を使って調べ、～になったから～だといえる。」
- ⑨ **考察したことを話し合う**。(話す・聞く)
※ 学びを深めることができる。
※ 学んだことを生活とのかかわりの中で見直すことができる。
※ 新たな問題が生まれることにもつながる。

学習内容や授業時間によっては上記の①～⑨のすべてを行う必要はなく、授業を行う教師の判断で言語活動を取り入れることが大切である。

(5) 生活

① 言語活動の充実

生活科において、言語活動の前に必ず大切にしなければならないこととして、その子なりの思いや願いをもたせることがある。思いや願いがなければ活動を通して楽しさや自己の成長、知的な気づきなどを引き出すことはできず、当然それらを伝えたいという意欲は生まれない。教師は子ども一人一人に思いや願いをもたせ、活動の中で得られる気づきを大切に、その気づきの質を高める支援をする。その支援がなされた活動において言語をも含めた表現活動がなされていく。つまり、言語活動の充実は、具体的な活動や体験を通して、人や社会、自然とのかかわりの中で子どもの気づきの質を高めていくことでなされる。

② めざす授業

単元を構想する
体全体で自然に親しむ活動、人とかかわる活動を位置づける。



思いや願いをもたせる
もっと見たい、触れたい、やりたい、知りたいという欲求。思いや願いが強いほど事物現象のおもしろさや不思議さに気づく。



繰り返し対象とかかわらせる
継続的な飼育栽培活動
工夫して何度も作り直す活動
思いや願いを高める



気づきの質を高める
直感的な特徴付けやアイデア、比較や関係付けを行って得られた考え方を、自らの論理として、それぞれの児童が進んで言い表す。
知的な気づき

《 》言語活動の種類

※ 活動が発表のためのものにならない。

○ 気づきを認める

発見カード《書く》→朱書き、掲示
話し合い《話す》→板書

○ 気づきへの問い返しをする

活動中《話す》→対話

※ 子どもの主体性を大事にし、教師の主観を入れてはならない。

○ 表現活動を位置づける

絵を描く・作る・動作化・歌

歌詞を作る《書く》

案内の手紙を書く《書く》

○ コミュニケーション活動《話す》

やり方を聞く・教えてもらう

話し合い

作り方を教える

○ 発表活動を位置づける

劇をする《話す・読む・書く》

紙芝居を作る

お店を開く・お祭りをする

○ 活動を振り返えらせる

《話す・書く》

話し合い・手紙・アルバム

今回の指導要領の改訂では、気づきの質を高めるための活動や体験を充実するための学習活動が重視され、自分の良さや可能性まで気づきを深め、意欲をもって生活できるようになることを目標としている。また、気づいたことを比べる、例えるなどの学習活動を取り入れることで考えさせることなどが盛り込まれている。言語力についても、身近な人々と伝え合う活動を行い、進んで交流する内容が新設されている。

(6) 音 楽

① 言語活動の充実

小学校では、鑑賞領域の各学年の内容に、「感じ取ったことを言葉で表すなどの活動」を位置づけている。これには、言葉で表現することによって楽曲や演奏の楽しさに気づいたり、楽曲の特徴や演奏のよさに気づいたり理解したりする能力が高まることへの期待が込められている。

中学校では、鑑賞領域の内容に、「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、言葉で説明する（根拠をもって批評する）などして、音楽のよさや美しさを味わうこと。（括弧内は第2・第3学年）」と示されている。

また、「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、「生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫すること。」が求められている。

これらは、知的活動だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある言語の役割を重視し、その能力を育成するための方策として講じられたものと受け止めることができる。

ただ、ここで留意しておかねばならないことは、言語活動そのものだけが目的ではなく、音楽のよさや美しさを味わうことが最も大事であるということである。

② めざす授業

《小学校》

○ 鑑賞において「言葉で表す活動」

鑑賞教材を児童に聴かせる際に、その楽曲や演奏の注目させたい特徴等を、具体的に鑑賞のポイントとして示し、その点についての感想等を言葉で表現させる活動。授業の中で文章にまとめたり、口頭で発表したりする。

《中学校》

○ 鑑賞において「根拠をもって批評する活動」

- 1 根拠を示すために必要な「音楽を形づくっている要素」についての知識を獲得したり、音楽用語を使い慣れるための活動を日常的に行ったりする。
- 2 生徒が新聞や音楽専門誌上の音楽批評文を探してくる。実際に読んで批評の仕方を研究する。もし生徒が批評文を見つけられない場合は、教師が用意する。特に、筆者が根拠を示して自分の考えを述べている部分を参考にさせるとよい。
- 3 音楽を聴いてそのよさや美しさについて、具体的な根拠を示し、自分の感じたこと等を言葉で表現する。文章にまとめたり、口頭で発表したりする。

○ 表現活動において「自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりするなどコミュニケーションを図る活動」

合唱や合奏の音楽作りを全体やグループで行う際に、その曲にふさわしい表現の仕方やいろいろな工夫等についてメンバーが意見交換をしながら進める。進行役はグループのリーダーや教師が務め、あらかじめ「音楽を形づくっている要素」の中から、考える対象とするものを選んでおくとよい。

(7) 図画工作、美術

① 言語活動の充実

主に、鑑賞の活動に位置づけられている。

〈学習指導要領 B鑑賞〉

低学年：「感じたことを話したり、友人の話を聞いたりする」

中・高学年：「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりする」

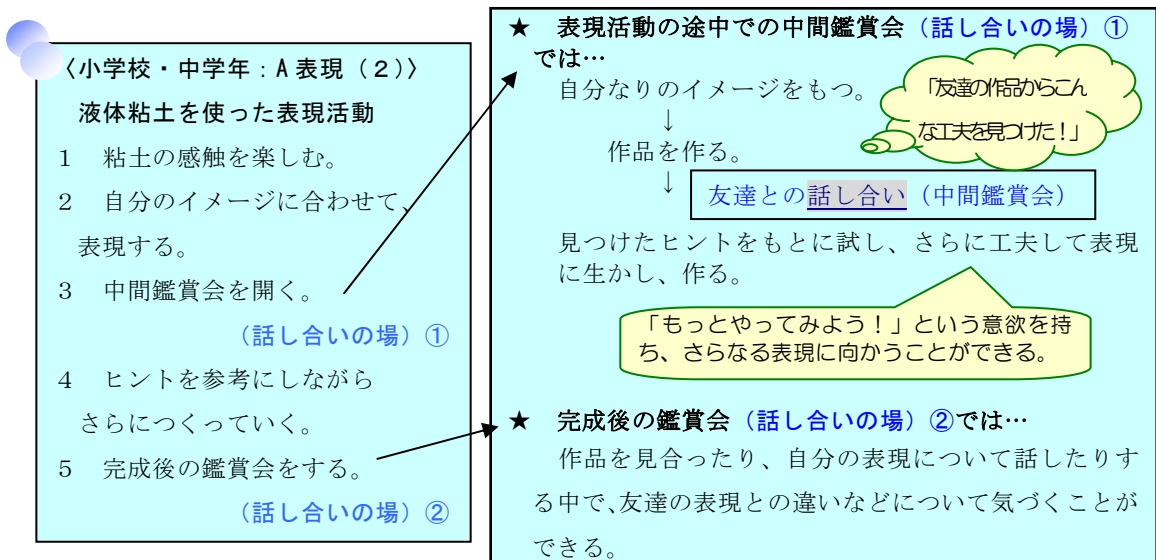
中学校1年：「作品などに対する思いや考えを説明し合うなど」

中学校2・3年：「作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなど」

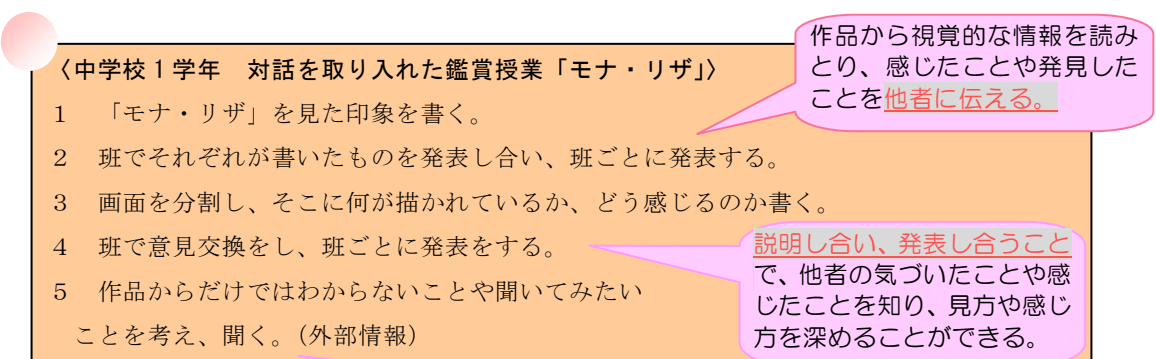
子どもたちが互いの意見を出し合い、自分が気づかなかったことに気づいたり、新しい見方を取り入れたりすることによって、鑑賞の能力を高めることをねらいとしている。

② めざす授業

子どもが相互に感じたことや考えたことを聞いたり、話したりしながら、思いを広げ表現できるようにする。



思いや考えを説明し合ったり、批評し合ったりする中で、自分では気づかなかった視点や概念を得られ、作品に対する新しい価値を見つけることができるようにする。



新しく得た情報や知識から新しい作品解釈ができる。

(8) 体育、保健体育

① 言語活動の充実

学習指導要領の改訂に伴って、言語活動の充実が求められるようになった。体育学習は、単に体力や技能の向上のみを直接の指導内容としているのではなく、その学習過程において、ルールやマナーを守ろうとすることやチームの作戦や個人の課題解決に向けて、教え合おうとする態度などを重視していることから、言語活動が複合的に内包されていると考えられる。体育学習の中で言語活動を充実させることは、語彙や表現力を獲得し、自分や他者の感情や思いを受け止めることができるなど、コミュニケーション能力を高めることにもつながる。そして、豊かなかかわりから安心して学習に取り組むことができるようになる。

② めざす授業

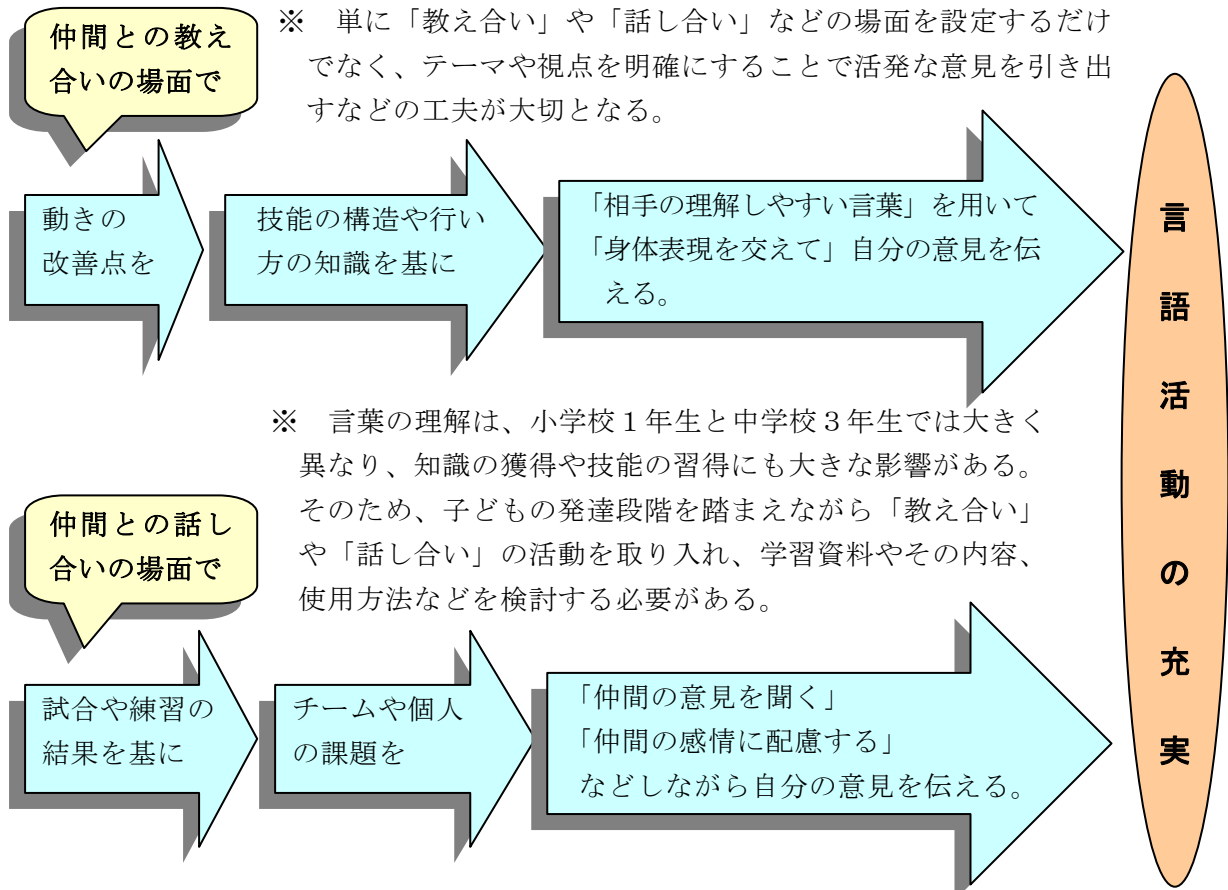
《言語活動の充実につながる学習活動》

- ・ 体験から感じ取ったことを言葉や絵、身体などを使って表現する。
- ・ 球技やダンスなどの集団活動や身体表現などを通じて他者と伝え合ったり、共感したりする。
- ・ 保健領域において、これまでの知識を活用して話し合いなどを行う学習活動を取り入れる。

《言語活動の充実に向けて》

- ・ 適切な教材や発問、指導過程の工夫、運動観察ポイントなどの明確化を図ることで、十分な運動量を確保しつつ言語活動の充実を図っていくことが大切となる。

《場面の具体例》



(9) 家庭、技術・家庭

《家庭》

① 言語活動の充実

衣食住など生活の様々な言葉を実感を伴って理解したり、生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実を図る。

感受・表現・・家庭生活を見つめ、気づいたこと・調べたこと・製作を通して感じたことをまとめる。

理解・伝達・・まとめや図式化したものを相手に分かりやすく伝える。

評価・・・・自分や他者の作品や活動への取り組みの様子から、良いところを見つけたり課題を見つけたりして意見を出し合う。

共同・発信・・実習や体験の活動を通して、気づいたことや分かったことを実生活で生かす。

② めざす授業

実践的・体験的な 学習活動の充実

気づき・驚きなどの感性や五感を使って感覚に訴える学習活動を大切にする。

問題解決的な学習の充実

子どもたちが、思考・判断する学習場面の設定や、実践的・体験的な学習活動を繰り返す。

実感を伴う理解

分かったことを図や表にまとめる活動や実践した感想や家族からの思いを伝え合う活動。

生活をよりよくしようとする能力と態度をはぐくむ授業

《技術・家庭》

① 言語活動の充実

小学校で身につけた「考えたり、説明したりする」能力をさらに高め、実践的・体験活動を通して、語彙を理解し増やす。そして、これまでの学びをもとに、未習のことでも、思考・判断して、解決したり、理解したりする能力を高める。

② めざす授業

言語を用いて考え、説明する場面の設定

設計図やフローチャート、献立表などを持ちいて考えをまとめ、発表する活動を取り入れる。

実践的・体験的活動から語彙を理解する場面の設定

体験を通して思ったことや感じたことを整理し、考察する活動を取り入れる。

コミュニケーションをとる場面の設定

考えを伝え合い、共同作業をするなど、コミュニケーションをとりながら学ぶ活動を取り入れる。

(10) 英語

① 言語活動の充実

英語で「話したい」、「書いてみたい」と生徒が思えるような、そんなきっかけとなるような授業をすることが、中学校の役割である。そのためには英語らしい発音ができるようになるのはもちろん、自信をもって話すための「音読練習」をしっかりと行い、授業で（新しく）覚えた英語を使つての「会話活動」などを積極的に取り入れていくべきである。

② めざす授業

ア コミュニケーションを図る機会を増やすために、授業の始めに5分間程度でできるようなコミュニケーション活動を継続的に取り入れる。

（簡単な）インタビュー活動、会話活動

例 1年生の初期

A: Hi. I'm Taro.

B: Hi. I'm Hanako.

A: I like sushi. Do you like sushi?

B: Yes, I do. I like it very much. / No, I don't. I like tempura. How about you? etc

イ 今まで学習した文法事項をフル活用し、辞書なども使いながら未習の表現などを取り入れ、自分の言いたいことを文章にし、それを発表する。

- ・ 日本語で自分の言いたいことを考え、それを英文にしていく。
直訳ではなく、「英語で表現する」には、どのように言えばいいのかなどを考えながら英文を作る。
- ・ 覚えて発表する。(ジェスチャーなども使うように指示する)
- ・ グループ内で発表し、他の生徒からアドバイスをもらう。
- ・ 学級の前で発表する。

例 2年生の「自己紹介」

自己紹介をしよう！ PART2

日本語	英文
① こんにちは、僕の名前は〇〇です。	① Hello. My name is 〇〇.
② ぼくの誕生日は9月13日です。	② My birthday is September 13.
③ みんなは僕のことをチャコスカ元太と呼びます。	③ Everyone calls me Chakosu or Genta.
④ 僕はずっと知立に住んでいます。	④ Since I was born, I have lived in Chiryu.
⑤ 僕の家族は4人です。	⑤ There are four people in my family.
⑥ これらは約5年前の僕の家族の写真です。	⑥ These pictures were my family about five years ago.
⑦ 僕はサッカー部に所属しています。	⑦ I belong to the soccer club.
⑧ 僕は5年前にサッカーを始めました。	⑧ I started soccer five years ago.
⑨ 今もサッカーが大好きです。	⑨ I like soccer very much.
⑩ うまくはありません。	⑩ I don't play soccer well.
⑪ だけどサッカーをやっているときがとても楽しいです。	⑪ But I'm very happy when I'm playing soccer.
⑫ これからもがんばりたいです。	⑫ I hope that I practice soccer hard.
⑬ ありがとう。	⑬ Thank you.

(11) 道 徳

① 言語活動の充実

言語活動を生かす4つのアプローチ

- A 自分の考えをもつことができる…思考整理メモ・学習シートの工夫
- B 自分の考えをもとに表現できる…動作化・役割演技の活用
- C 互いの考えに接し、比べたり磨き合ったりできる…ペア・小集団・討論の活用
- D 自らの成長を実感できる…記録の蓄積による継続した自己評価

② めざす授業

- A ワークシートの有効活用で考えを明確にし、主題への方向を定める授業

例1 小6 「シルバーシートと私たち」2-(3) 思いやり・親切
シルバーシートはあったほうがいい、なくてもいい、どちらですか。
いずれかを選んでカードに印をつけ、じっくりと理由を考えて書く。…個々の児童生徒の立場を明確にし、論点をしぼる活動。→Cの討論への展開もできる。

例2 中1 「花を支える枝」2-(2) 感謝の心
自分が木になるとしたら、花・枝・茎・根のどれがいいですか。
カードに記入し、その理由も書く。…授業の導入段階で、学習への関心や期待感を高める活動。

- B 動作化・役割演技によって、価値葛藤を実感し、自分の言葉で表現する授業

例1 小2 「ノンタン ぶらんこのせて」2-(5) 仲良し・助け合い
「かわってくれなきゃ、もう遊んであげないよ」と言われたときノンタンはどう答えたでしょう。
役割演技によって、ノンタンの気持ちになりきって表現する。…主人公への共感を強め、心の葛藤を実感させる活動。

例2 小3 「たけしくんのぼうし」2-(3) 友情・信頼
短くしすぎた髪を隠し、帽子をかぶって登校したたけし君。教室に入るときどうするでしょう。
帽子をかぶって主人公の気持ちを想像し、言葉にしてみる。…帽子という小道具によって、主人公の切実な気持ちに共感し、言葉として引き出していく活動。

- C 中心発問で互いに話し合う場を設け、考えを深め合う授業

例1 中1 「校内水泳大会」4-(4) 役割と責任の自覚
全員参加が原則の水泳大会に「泳げないからいや」という裕子さんを出すべきでしょうか。
出したい、出さない、それぞれの立場から討論を行う。…相互の別の立場からの意見を聞き合い、認め合いながら考えを深めていく活動。

例2 小5 「手品師」1-(4) 明るい心
劇場からの依頼と子どもとの約束が同じ日に…手品師はどうしたでしょう。
登場人物のみんながよい気持ちになれる道はないかを、グループで話し合う。…主人公の葛藤を理解しつつ、場に応じたよりよい可能性を見出そうとする活動。

- D 道徳ノートで成長の記録として蓄積し、生かしていく学級での取り組み

例 小5 「思考の再構築」思い・考えの歴史を見つめなおす学級掲示
主人公の思いは、いつか道徳の時間で登場した誰かに、似ていませんか。
道徳授業の概略と発言を掲示・累積し、適宜振り返りながら道徳の学びを確かめ、高めていく。…「前に道徳で勉強した橋本さんの話と同じです。見てくれる人がいるから励みになったと思います。」児童は前時までの掲示を指し示しながら発言していく。継続した道徳の時間の学びの蓄積を学級の財産として生かす活動。

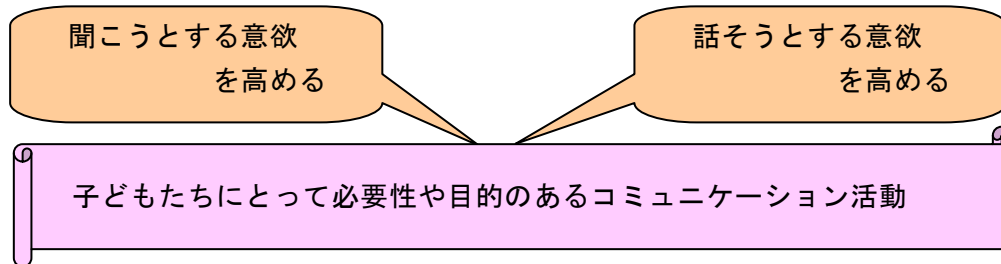
(12) 英語活動

① 言語活動の充実

小学校における英語活動においての大切な目標の一つとして、次のことがあげられる。

楽しみながら、ことばを使って人とかかわることができる社会性（コミュニケーション能力）の育成

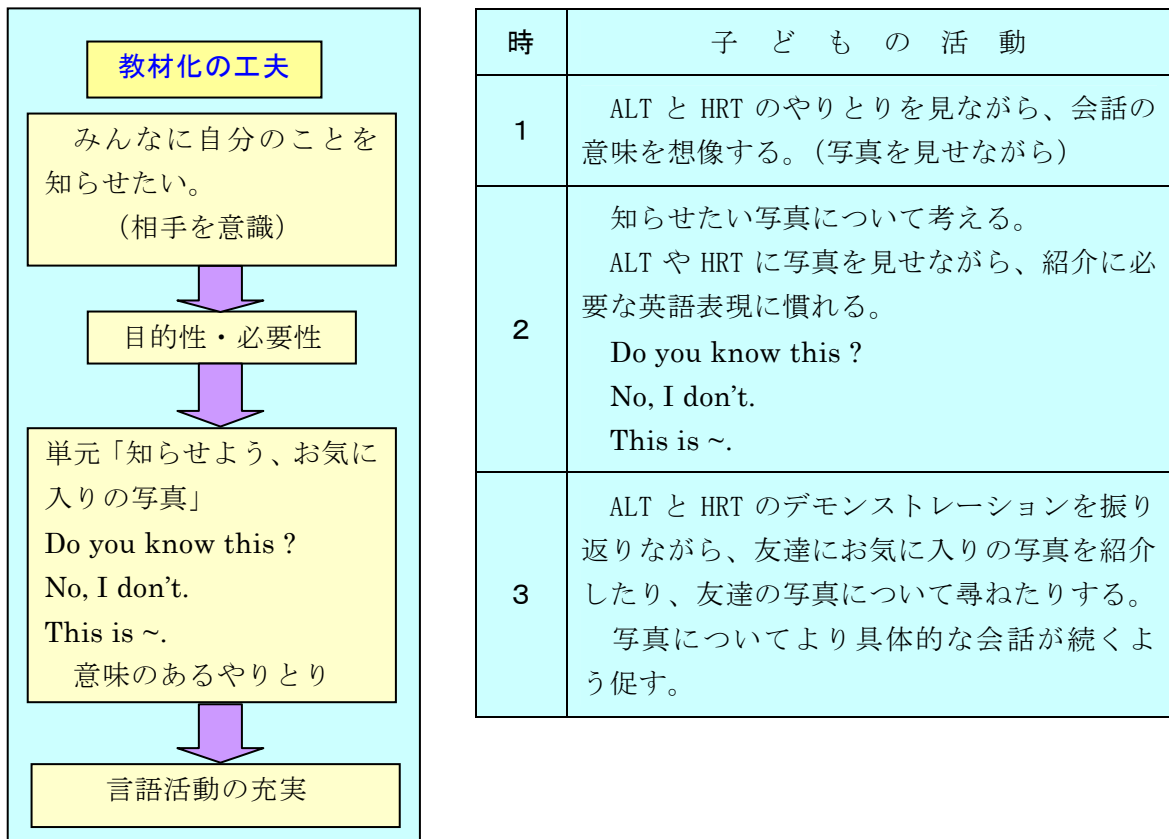
この目標実現のために、具体的に私たち教師は次のことを心がけながら授業を進めることが大切である。



子どもたちの「～を知らせたい・知りたい」という意欲を高めるために、目的のあるコミュニケーション活動が必要である。そのような活動を体験することが、言葉を交わす相手の新たな一面を発見させ、英語を使ってコミュニケーションをする楽しさを感じさせてくれる。

② めざす授業

まず教えた文や単語の学習から入るのではなく、言葉を交わす相手を意識した活動から入る。それらの活動の中から、自然と会話に必要な文や表現を知る。以下は授業実践例である。

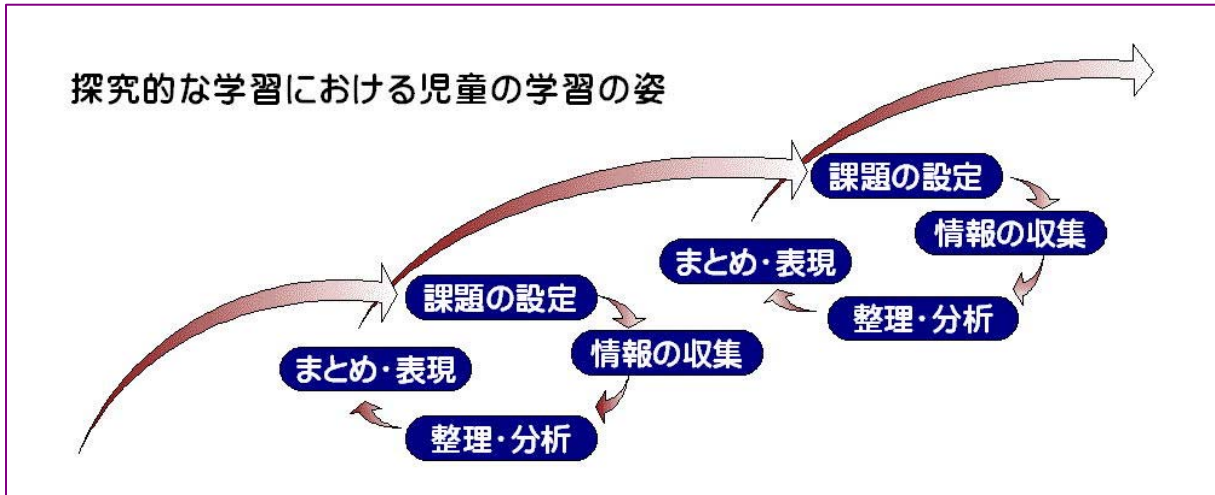


(13) 総合的な学習の時間

① 言語活動の充実

総合的な学習の時間における「言語活動の充実」とは、探究的な学習におけるそれぞれの過程や、互いに教え合い学び合う協同的な学びにおいて言語を使って整理したり、それをまとめたり表現したりする活動を大切にすることを意味する。

② めざす授業



■日常生活や社会に目を向け、児童が自ら課題を設定する。

■探究の過程を経由する。
①課題の設定
②情報の収集
③整理・分析
④まとめ・表現

■自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

『③整理・分析』の段階で

【言語活動の例】

水生生物調査をした際には、その分析の様子を地図上に整理したり、水質の変化をグラフ化したりすることが考えられる。また、エコバッグ使用状況の調査をした時に、インタビューから得た情報をカードや表にして整理することも考えられる。

『④まとめ・表現』の段階で

【言語活動の例】

- ・ エコバッグ使用状況の調査をした場合には、その結果をレポートや新聞、ポスターにまとめたり、写真やグラフ、図などを使ってプレゼンテーションやポスターセッションなどをして表現したりする。その過程で、相手を意識して、伝えたいことを論理的に表現することで一層考えが確かになっていく。
- ・ 米作り体験や農家へのインタビュー等を基に稲作の工夫や環境への配慮、安全性など、食と健康についてまとめたレポートによる発表会を行い、今後の取り組みについてアドバイスし合う活動を行う。

(14) 特別活動

① 言語活動の充実

特別活動においては、例えば各教科の学習で見られる学力格差による学習意欲への影響はそれほど受けない。一人一人を大切にしたいコミュニケーション活動を心がけた授業運営（学級経営）をしていけば、児童生徒は学ぶ喜びと自己存在感を感じることができるであろう。その結果として、特別活動の目標である社会性の発達や生きる力の育成を達成するとともに、すべての教育課程における言語活動充実の基盤となり得ると考えている。

② めざす授業－学ぶ喜びと自己存在感を実感することができる学級活動

ア 学ぶ喜びと自己存在感を実感することができる学習内容

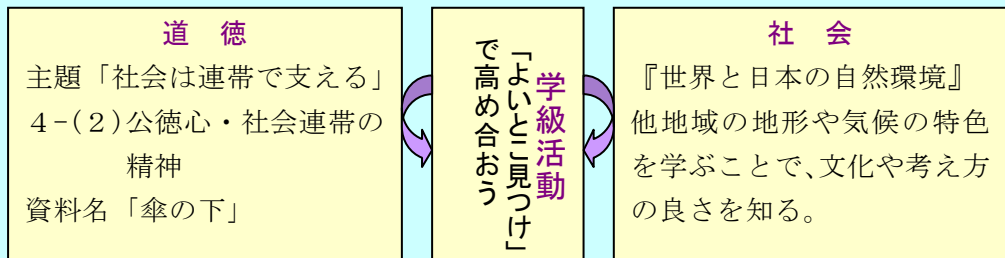
- ・ 発達段階にあわせて、学級全体や個々の児童生徒の社会性や生きる力をいっそう伸ばしていくために必要不可欠かつタイムリーな学習内容

実践例－中3 「20年後の自分をイメージしよう」（キャリア教育）

4人グループで、自他の個性や良さを伝え合いながら、20年後の自分たちをイメージしたり、そのために、今やるべきことについて話し合ったりする。小学校から継続して指導してきたキャリア教育の到達点として、また、学習指導要領で示されている「学業と進路」の中核としての位置づけである。

- ・ 各教科や総合的な学習の時間、道徳等と有機的に関連づけること（ユニット化）で、学習意欲の高まりや継続を可能とする学習内容

実践例－中2 『よいところ見つけ』で高め合おう



イ 学ぶ喜びと自己存在感を実感することができる学習方法

- ・ ペアやグループでの「一人一人を大切にしたいコミュニケーション活動」を基盤にした学習方法
- ・ 学習経験が実生活に円滑かつ適切に反映されることをめざし体験や参加型学習、家庭・地域との連携を積極的に取り入れた学習方法

実践例－小5 「互いのことをもっと知ろう－無人島SOSを通して」

「無人島SOS」という構成的エンカウンターエクササイズを4人グループで行い、互いの考えを伝え合ったり、考えのよさを認め合ったりすることの楽しさに気づかせる。この活動を通して、すべての児童がグループ内・学級内での自己存在感を実感できるようにする。